

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-53	高等学校	地理歴史科	世界史 B	1～3 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B 310	詳説世界史 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

- (1) 編修にあたっては、幅広く世界史の知識を学び、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。
- (2) 本書は 4 単位ないしはそれ以上の単位で授業をおこなう高等学校で使用されることを前提として編修したため、基本的な事項・事柄は漏れのないように記述した。理解を深めるため、やや詳しいと思われる事項・事柄を脚注や図版解説で一部扱ったが、細かな事象や高度な事項・事柄には可能なかぎり深入りしないようにした。
- (3) 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目し、各地域世界の叙述の冒頭に風土を簡潔にのべた。また日本の歴史の位置づけに留意し、日本の歴史と世界の歴史の相互の関連に配慮する項目を置いた。
- (4) 各部の初めに「概観」を設け、その部で取扱う時代がどのような時代であるか、各部の鍵となる概念を示し、また各部本文の後に「まとめ」を設け、その部で理解させたいチェックポイントを示しながら歴史の大きな流れと特色を把握できるようにした。また、各部末の「主題学習」では、歴史学習の基本的技能を習得させるため具体的事例をあげて説明し、かつ生徒が主体的に考察できるよう促す配慮を施した。
- (5) 「世界史への扉」の内容は、世界史学習の導入に当たることを考慮して、生徒が興味・関心を持てるテーマを選び、平易に記述した。

2. 編修の基本方針

- (1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 B」の目標、内容、内容の取扱いの趣旨に従ったが、高等学校における世界史学習上の問題点や現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて本書を作成した。
- (2) 学習指導要領世界史 B の内容である「世界史への扉」「諸地域世界の形成」「諸地域世界の交流と再編」「諸地域世界の結合と変容」「地球世界の到来」の趣旨に従って、部・章立てを行った。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史を学ぶみなさんへ	* 冒頭の「世界史を学ぶみなさんへ」で、	1 ページ
世界史への扉	生徒に世界史を学ぶことの意味をわかりやすく説明し、「世界史への扉」とともに、世界史学習の導入となるようにした(第 1 号)。	4～9 ページ
① 気候変動と私たち人類の生活	* 「世界史への扉 1 気候変動と私たち人類の生活」では、環境問題の重要性を提示した(第 4 号)。	4～5 ページ
② 漂流民のみた世界		
③ 砂糖からみた世界の歴史		

	* 「世界史への扉 2 漂流民のみた世界」 では、日本人にとっての世界史という観点から、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう記述した（第5号）。	6～7ページ
序章 先史の世界 第I部 概観 第1章 オリエンと地中海世界 1 古代オリエンと世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1 草原の遊牧民とオアシスの定住民 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成 第I部 まとめ 主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界	* 第1部概観「自然環境と文明」で、自然環境との関わりの重要性を提示した（第4号）。 * 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、オリエンと世界、地中海世界、インド世界、東南アジア世界、東アジア世界の冒頭でそれぞれの風土を簡潔に述べた（第1号）。 * 主題学習「時間軸からみる諸地域世界」で具体的主題を設け、生徒の主体的な追求を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。	14～15ページ 16～17ページ 27～28ページ 52～53ページ 62～63ページ 65～66ページ 96～97ページ
第II部 概観 第4章 イスラーム世界の形成と発展 1 イスラーム世界の形成 2 イスラーム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4 イスラーム文明の発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 1 トルコ化とイスラーム化の進展 2 東アジア諸地域の自立化 3 モンゴルの大帝国 第II部 まとめ 主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界	* 第4章「東南アジアの交易とイスラーム化」「アフリカのイスラーム化」で、東南アジア・アフリカの歴史にも言及し、地域の欠落がないように努めた（第1号。） * 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、ヨーロッパ世界の冒頭で風土を簡潔に述べた（第1号）。 * 主題学習「空間軸からみる諸地域世界」で具体的主題を設け、生徒の主体的な追求を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。	112～115ページ 120～122ページ 174～175ページ
第III部 概観 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の交流と東南アジア交易の発展	* 第8章「東ヨーロッパの新しい動き」、第11章「ラテンアメリカの独立」で、東ヨーロッパ・ラテンアメリカの歴史にも言及し、地域の欠落がないように努めた（第1号。） * 「日本の開国と明治維新」「日露対立と列	222ページ 272～273ページ 299～301ページ

第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	強」「東アジア国際秩序の再編」で、日本人にとっての世界史という観点から、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう記述した（第5号）。	
1 ヨーロッパ世界の拡大		
2 ルネサンス		
3 宗教改革		
4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成		
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	* 第Ⅲ部まとめでは、人々が異文化と接触する際の示唆となる内容を提示した（第3号）。	302～303ページ
1 重商主義と啓蒙専制主義		
2 ヨーロッパ諸国の海外進出		
3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会		
第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	* 主題学習「資料から読みとく歴史の世界」で、生徒の主体的な追究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。	304～305ページ
1 産業革命		
2 アメリカ独立革命		
3 フランス革命とナポレオン		
第11章 欧米における近代国民国家の発展		
1 ウィーン体制の成立		
2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生		
3 南北アメリカの発展		
4 19世紀欧米の文化		
第12章 アジア諸地域の動揺		
1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容		
2 南アジア・東南アジアの植民地化		
3 東アジアの激動		
第Ⅲ部 まとめ		
主題学習Ⅲ 資料から読みとく歴史の世界		
第Ⅳ部 概観	* 第4部概観や第14章、第15章「戦後世界秩序の形成」で、人類は20世紀の大戦をへて、様々な努力により平和な世界をめざしているという理解を促す内容を提示した（第3号）。	306～307ページ
第13章 帝国主義とアジアの民族運動		331～370ページ
1 帝国主義と列強の展開		371～373ページ
2 世界分割と列強対立		
3 アジア諸国の改革と民族運動		
第14章 二つの世界大戦	* 第13章「アフリカの植民地化」「太平洋地域の分割」「ラテンアメリカ諸国の従属と抵抗」で、アフリカ、ラテンアメリカ、太平洋地域の歴史にも言及し、地域の欠落がないように努めた（第1号）。	315～320ページ
1 第一次世界大戦とロシア革命		
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国		
3 アジア・アフリカ地域の民族運動		
4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略		
5 第二次世界大戦		
第15章 冷戦と第三世界の独立	* 第13章「日露対立と列強」、第14章「日本の動きと東アジアの民族運動」、第15章「西欧・日本の経済復興」で、日本人にとっての世界史という観点から、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう記述した（第5号）。	322～324ページ
1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立		347～349ページ
2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興		382～383ページ
3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り		
4 石油危機と世界経済の再編		
第16章 現在の世界		
1 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展		
2 途上国の民主化と独裁政権の動揺	* 第16章「環境保護と生活スタイルの変	411～413ページ

<p>3 地域紛争の激化と深刻化する貧困</p> <p>4 現代文明の諸相</p>	<p>容」、第4部まとめ「地球世界の課題」で、環境問題の重要性を提示した(第4号)。</p>	<p>416ページ</p>
<p>主題学習Ⅳ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p>	<p>*主題学習「資料を活用して探究する地球世界の課題」で具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した(第2号)。</p>	<p>417～418ページ</p>

<p>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>
<p>1. 可能なかぎり平易な叙述に努め、また振り仮名や参照ページなどもていねいに挿入し、生徒が自主的かつ積極的に学習できるよう工夫した。</p> <p>2. 図版はできるだけ各ページに挿入するようにし、本文の理解を助け、興味を増すよう工夫した。歴史地図はカラーユニバーサルデザインも考慮して可能な限り読図しやすくするよう配慮した。</p> <p>3. 口絵は、導入部分として写真を大きく掲載し、各時代の世界に関し、生徒が関心を持てるようにした。その際、取扱う地域のバランスも考慮した。</p> <p>4. 高等学校現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能なかぎりそれを記述に生かすように努めた。</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-53	高等学校	地理歴史科	世界史 B	1～3 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B 310	詳説世界史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- * 第Ⅰ・Ⅱ部で、世界の諸地域の文化的枠組みがどのように形成され、変化したか、第Ⅲ・Ⅳ部で各地域間の交流からどのように世界の一体化が進み、そのなかで地域内部の構造がどのように変容したか、という基本的な問いを掲げながら、諸地域や時代の具体的な展開を叙述することに努めた。
- * その際、各部の「概観」で視点やテーマを示し、「まとめ」で各時代の特徴を確認した。また主題学習では例示した課題を活用し、生徒自身が考える力を身につけることができるように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界史への扉 ①気候変動と私たち人類の生活 ②漂流民のみた世界 ③砂糖からみた世界の歴史	(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史	4～9 ページ	3
序章 先史の世界 第Ⅰ部 概観 第1章 オリエントと地中海世界 1 古代オリエント世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界	10～97 ページ	12
第2章 アジア・アメリカの古代文明 1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明	イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界		8
第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1 草原の遊牧民とオアシスの定住民 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成			6

第Ⅰ部 まとめ			
主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界	エ 時間軸からみる諸地域世界		1
第Ⅱ部 概観	(3) 諸地域世界の交流と再編	98 ~ 175 ページ	
第4章 イスラーム世界の形成と発展	ア イスラーム世界の形成と拡大		7
1 イスラーム世界の形成			
2 イスラーム世界の発展			
3 インド・東南アジア・アフリカの イスラーム化			
4 イスラーム文明の発展			
第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	イ ヨーロッパ世界の形成と展開		12
1 西ヨーロッパ世界の成立			
2 東ヨーロッパ世界の成立			
3 西ヨーロッパ中世世界の変容			
4 西ヨーロッパの中世文化			
第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の 展開	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界		6
1 トルコ化とイスラーム化の進展			
2 東アジア諸地域の自立化			
3 モンゴルの大帝国			
第Ⅱ部 まとめ			
主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界	エ 空間軸からみる諸地域世界		1
第Ⅲ部 概観	(4) 諸地域世界の結合と変容	176 ~ 305 ページ	
第7章 アジア諸地域の繁栄	ア アジア諸地域の繁栄と日本		8
1 東アジア世界の動向			
2 清代の中国と隣接諸地域			
3 トルコ・イラン世界の展開			
4 ムガル帝国の交流と東南アジア交 易の発展			
第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界		8
1 ヨーロッパ世界の拡大			
2 ルネサンス			
3 宗教改革			
4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国 家体制の形成			
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開			6
1 重商主義と啓蒙専制主義			
2 ヨーロッパ諸国の海外進出			
3 17 ~ 18 世紀ヨーロッパの文化と社			

会			
第 10 章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	ウ 産業社会と国民国家の形成		6
第 11 章 欧米における近代国民国家の発展 1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19 世紀欧米の文化			9
第 12 章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	エ 世界市場の形成と日本		6
第Ⅲ部 まとめ 主題学習Ⅲ 資料から読みとく歴史の世界	オ 資料からよみとく歴史の世界		1
第Ⅳ部 概観	(5) 地球世界の到来	306 ~ 418 ページ	
第 13 章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動	ア 帝国主義と社会の変容		8
第 14 章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦	イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現		15
第 15 章 冷戦と第三世界の独立 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り	ウ 米ソ冷戦と第三世界		9

4 石油危機と世界経済の再編			
第16章 現在の世界	エ グローバル化した世界と日本		6
1 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展			
2 途上国の民主化と独裁政権の動揺			
3 地域紛争の激化と深刻化する貧困			
4 現代文明の諸特徴			
主題学習Ⅳ 資料を活用して探究する地球世界の課題	オ 資料を活用して探究する地球世界の課題		1
		計	140